

「学びの共同体」スーパーバイザー村瀬公胤先生と、麻布研究所の永島孝嗣先生が国頭村のへき地校(小学校)を訪問されました。国頭中の神元校長と私も同行し、安田小での授業視察と北国小学校で授業視察をし、国頭村のへき地のかわいい子ども達と、がんばる教師達の姿を紹介させていただきました。

☆本資料に出てくる子どもの名前は全て仮名である。

【安田小・安波小 3～6年合同体育】



写真①

安田小・安波小の集合学習。たまたまの訪問である。両校の子ども達が自然に溶け合っている。まったく違和感や身構えがない写真①。しつこいようだがまったく自然である。両校のこれまでの日常がうかがえる。写真②、チームに分かれての作戦タイムである、体力差、能力差、いろんな仲間の個性を考えて作戦が立てられる。



写真②

【 1/2年 算数 N 先生 (安波小教諭) 】

ねこが 15ひき います  
ねこは 犬より4ひき おおいそうです。  
犬は なんひき いますか？



写真③



写真④



写真⑤

いつも、どこでもしつとりした授業を見せてくれる安波小N先生である。今日もの1/2年生のかわいい学び合いが展開される。

写真③、自分の考えを絵図で説明するめぐさん。たどたどしい自分の言葉で話す。今日も教師は淡々と、子ども達の考えを「つなぐ」に徹する。奈々子先生のいつでも、何でもしっかり「聴いてくれる」姿勢に、子ども達は自然に話す・語る姿勢が出来上がっている。屈託のないほんとは幸せな笑顔は教師の日常の学級経営の現れである。子どもも、教師も、観る側も癒される授業である。

写真④、さくらさん、「おい」の何で引き算なの？めぐさんの説明が「ふに落ちない」必死に説明するめぐさん。それでも納得いかない。写真④、やがて仲間も加わる。必死にさくらさんに説明する。子ども達は訊く側も、話す側も自然に学びを深める。大切なのはこの状況での教師である。N先生はほとんど話さない、仲間と語り合う様子をじっと伺っているだけである。このような場面はN先生の教室では日常である。もし、この場で教師が問題文に手を出したり言葉を整理してしまうと、子ども達は語ることをやめるであろう。教師の我慢どころをよく抑えている。

途中で教室を離れたが、さくらさんは、授業終末では「ふに落ちた」と聞いて安心というより「よかったね～」でした。

【 安田小 1/2年 「友だちのいいところ」を見つけよう T 先生 】



T先生の教室の掲示である。「見事！以上」である。子どもが大事にされている。個の尊厳が実践された形でもある。自分のがんばりを賞してくれる先生に子どもはどう思うだろう。この子達の親はどう思うだろう。学校は…？



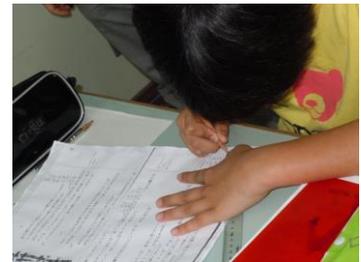
1名欠席の4名の授業、それでも仲間のいいところはたくさんある。このクラスも日常的に「支え合う」が形になっている教室である。みんなのいいところを最後は手拍子の歌にして授業をまとめた。教師「みんないいところいっぱいあるね、いいこと言われると笑顔になるよね…！」私が見るこの教室の一番の笑顔は、教師の笑顔である。

【 国頭村奥の食堂にての昼食 】



県道 58 号線、沖縄起点(0m地点)の国頭村奥区、国頭村東海岸の山間の村である。ここに国頭村へき地の唯一の食堂がある。  
さて、ご二人が召し上がっている沖縄料理は？実は「ヤギ汁」通称「ヒージャー汁」である。大丈夫かな？私の心配をよそにおいしそうにお召し上がり頂きました。しかも永島先生は沖縄通で「もっと血や内臓の入ったアジクーターがいいなあ。」とのこと「ほう〜」アジクーターの言葉が出てくるとはさすが沖縄通であると感心しました。昼から「ヒージャー汁」に向かう姿勢も挑戦かな？  
食後に食堂のおばさんが、熱いお茶を持ってきてくれた。ヒージャー汁の後は熱いお茶がいいとのこと。4人何も意見することなくおばさんの言う通りお茶をしっかりと飲んで「ご馳走様でした。」

【 国頭村立北国小学校にて 4年国語 「夕鶴」 M 先生 】

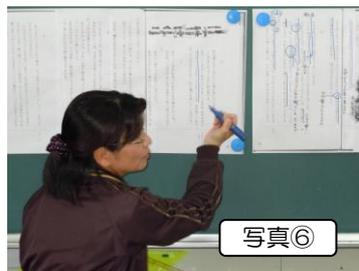


「北国小といっても寒いところではありません。」と1月の学びの共同体冬季セミナーで紹介させていただいた学校です。  
4年生は普段は2名だが、次年度は5/6年の複式になるため、国語の物語最後の単元を来年に向けた3人での学び合いで挑戦しているとのこと。奥の男の子が5年生で、現在、国語の時間だけ3人の学びを楽しんでいる。

「読み」終了後の書き込みである。実に20分の時間を費やした。教師は一言もしゃべらずにである。書いている様子をじっと伺っている。とくに5年生の敏則の様子を気にかけている。後で聞くと終了の見取りは、手前の女の子が鉛筆を置いたとき決したという。20分も費やしたのは本時の場面が長く、敏則さんが不慣れであったからという授業者の心づかいがあった。それにしても、観察している者にとっては何も動かない20分は長いものであるが、この子らにとっては何の苦痛もない当たり前であることがすばらしい。

【 共有する 】

書き込みの後、それぞれの気づきや疑問が共有される。答えを見つけるための「話し合い」ではない。お互いの気づきや考えを共有する活動時間である。  
3名とも先ほど20分かけて書き込んだ思いが掲示教科書に反映される写真⑥。当然「訊き合い」ながらである。  
4年生の海良くん（写真⑦の左）は、本年度より学びにより大きく成長してくれたと校長先生が自負するくらいである。  
しかし、まだまだ言葉はたどたどしいそれでも、しっかり学習に参加し「ぼくなりにできること」を思いっきりがんばっている。海良くんは、挿絵からの気づきが普段からすばらしいらしいが今日も羽おりの売り買いの様子を挿絵から見つけて、仲間と教師に説明していた。「聴いてくれるから話せる。」である。



写真⑥



写真⑦

【 使える教材はどん欲に使う 】



思わぬ質問を課せられた永島先生「そばがき」って何？どんな食べ物ですか？ 東京大学教育学研究科数学的認識論の説明がどこまで理解させられるか？。必死に説明する永島先生でした。案外こんな単純な説明がかえって難しいかも。

安田小学校・安波小学校・北国小学校の皆さんありがとうございました。ほんとに心より感謝します。「見たい人が来る」「どうぞ」実に簡単なやり取りであるが公共性の心がうれしい。村瀬先生も永島先生も満足頂けたのではないのでしょうか。いろいろ心遣いありがとうございました。  
右の写真、ある意味すごい？ 子ども3名に対し、東大出身の教授2名 神元校長、川口校長、私、担任、大人6名。カメラ3台である。  
教師も子ども達も「見られ慣れてきた」とは思うがすごいメンバーに囲まれて、緊張を押し殺し子ども達はがんばる。「子どもが一番偉い」  
国頭学びの会ゆい

